

手書きの学級通信

私が高校2年生となったある日、一通の手紙が届きました。それは、小学校6年の担任の先生から送られてきたもので、私は丁寧にびっしり書かれた手紙の中の「文字」を見た時、忘れかけていたたくさんのことを思い出しました。

私がその先生と出会ったのは、小学校6年の4月でした。「優しそうな先生だ。」というのが第一印象であり、先生と出会った時、楽しい一年になると、私は確信しました。その予想は的中し、先生と過ごした一年はとても楽しいものでした。種から苺を育てて収穫したり、駅伝大会で優勝したり、思い出すとワクワクするような思い出ばかりです。

そんなたくさんの思い出を作ってくださった先生の特徴は、『手書きの学級通信』です。ワクワクの詰まった私たちの思い出を、先生は毎日手書きで学級通信にして綴ってくださいました。先生のたくさんの愛と私たちの思い出が詰まった分厚い学級通信ファイルは今でも私の宝物です。その手書きの学級通信の「文字」が、高校2年生の時に送られてきた手紙に書かれていました。その温かく優しい先生の文章と文字は、部活と受験勉強に悩んでいた高校2年生の私に不思議な力を与えてくれました。今の私があるのは、その時の先生の手紙のお陰です。

私の夢は小学校の先生になることです。先生のように上手な文字を書けるわけでも文章を書くのが得意なわけでもありませんが、先生のように子どもの未来に「なぜだか頑張れる。前を向ける。」そんな不思議な力を与えられるような先生になりたいです。

池田 祐介
(大学生)